

I. ホスピス緩和ケアを支えるボランティア活動

9. 緩和ケアチームのボランティア—亀田総合病院の取り組み

関根 龍一

(亀田総合病院 緩和ケア科)

はじめに

亀田総合病院（以下、当院）は千葉県南房総地域の基幹病院（925床）であり、がん診療連携拠点病院の指定を受けている。急性期病院である当院は緩和ケア専門病床を持たず、コンサルテーションによるチーム活動を院内横断的に普及、浸透させるべく活動を続けている。チーム活動は2004年4月に始まり、2007年2月のチーム再編成を経て現在に至っている。

当院緩和ケアチームとボランティア活動の関わりのこれまで

当院では、看護部の健康管理支援室が院内ボランティア活動全体を長年にわたり取りまとめている。患者用図書室の運営、乳癌患者の会（あけぼの会）のサポートなどがおもな活動で、緩和ケアと直接関連のあるボランティア活動は2007年度まで存在しなかった。「地域市民に開かれた緩和ケアチームとしてボランティアがチームいてもいいのではないか？」という意見が上がり、ボランティア活動を開始した。以下に当チームが関わるボランティア活動を紹介する。

音楽ボランティア（音楽アナムカラ¹⁾と院内で呼称）

アナムカラとは、ケルト語で“魂の友”の意味をもつ。リラ・プレカリア（祈りのたて琴²⁾）というボランティア研修を2007年に修了したボランティアが、週1日、2名の患者さんを対象に歌とハーブの演奏で祈りを届けている。



図1 アロハ会の作品

この活動はいわゆる一般的な音楽療法とは異なり、人々の苦痛を共有し、心に寄り添う音楽（pastoral music ministry）を目指す。看取り期やさまざまな疾病によるつらさ・苦痛が強い場合、患者・家族や担当医からの希望がある場合、言葉でのコミュニケーションが困難な場合に介入を依頼している。活動開始から現在までの約2年間に、ほとんどの病棟の患者を訪室し、演奏（精神科病棟や集中治療室も含む）しているため、病院内での認知度は向上している。多職種カンファレンスでは、1週間以内に死亡した患者のことを思い、全員で黙祷を行うが、この際に音楽アナムカラはハーブ伴奏で参加メンバーとともに祈りを捧げている。

手作業の会（アロハ会¹⁾と院内で呼称） 担当ボランティア（図1）

① 活動に至った背景

臨床心理士が緩和ケアに関われる活動の場をつくり、これを患者・家族のケア向上に繋げる趣旨で、アロハ会が2007年5月に発足した。2名の

臨床心理士がこの活動を支える主メンバーである。当初は、緩和ケアチームが関わる患者・家族に対象者を限定したが、利用者数が少なかった。

このため、対象を全入院患者に広げ、気分転換の目的やピアカウンセリングの場として自由参加とした。以降、参加者は増加したため、2008年度よりアロハ会を手伝うスタッフとして、ボランティアを受け入れることとなった。

② 活動の内容と課題

毎週1回、午後におよそ2時間にわたり開催している。ボランティアは患者や家族の作品を手伝いながら、参加者と関わりをもっている。現在、アロハ会ボランティアは2名が活動中である。入院期間が長く気が減入っている患者の気分転換の場として、また患者同士が顔を合わせ知り合える場として、アロハ会は貴重な機会を提供している。

毎週アロハ会を楽しみに待つ患者も少なくない。アロハ会はボランティアにとって患者・家族と接点をもてる数少ない場でもある。患者・家族のニーズに沿って今後も活動を継続予定である。

亀田看護専門学校2年生対象の傾聴ボランティア (図2)

① 活動に至った背景

緩和ケアで関わる患者のなかには、家族友人の訪問がまったくなく、孤独のつらさで苦しむ患者が多い。この状況への改善策として、傾聴ボランティアを導入する案が従来より挙がっていた。

そこで、2007年度から毎年新学年の開始後、緩和ケア専従医が併設の看護学校2年生を対象に、「傾聴ボランティアをしませんか?」と緩和ケアの講義を兼ねてボランティアの募集を開始した。以降毎年、数名の看護学生が数回ずつ活動に参加している。

② 活動の実際と課題

当日は1人から2人組として訪室する。初回はチーム専従メンバーが同行する。ほとんどの学生は傾聴の経験がまったくないため、初回は30分



図2 看護学生傾聴ボランティア

程度の訪室とする。2回目の訪問からは、同じ患者の場合には部屋への同行のみで、その後は学生に任せる。学生の様子に自信がなければ、以降もチームメンバーが傍に付き添う。学生に気遣う余裕のある患者を選別して紹介すれば、患者は学生に自分の人生経験などを楽しく教え、若い世代へ思いを伝える喜びを感じる。

一方、学生は患者とのやりとり自体が貴重な経験となり、双方にとって有意義なひと時となる。しかし、いつもこのようにうまくいくわけではない。以下に問題点を述べる。

①傾聴ボランティアは、看護学生には当初の予想以上に荷が重いという印象である。

②2回目以降の訪問でも、不安の非常に強い学生を1人にできず、ずっと学生と一緒に患者に付き添うこともある。この場合には、チームとしては手が取られ、マンパワー不足となる。

③ボランティア受け入れ事務の手際がよくないと、学生はその後に来なくなってしまふ。

上記の問題点はあっても、この活動は早期からの緩和ケア看護の教育価値がある。今後も変わらずではあるが、この活動へのサポートを続けてゆきたい。

一般の傾聴ボランティア

2009年1月から、1名が月に2回活動中である。活動日には30~60分を1コマとして、これを2

コマ（2名）依頼している。傾聴する作業は、一朝一夕には身につくものではない。傾聴活動をボランティアに委ねる場合には、過去になんらかの医療現場での経験やそれに準じた経験・素養がなければ実際には難しいと感じている。

患者への負担ばかり多ければ、患者の方が逆にボランティアをしているようで、本末転倒である。傾聴ボランティア活動の維持、発展には、採用のための基準づくりや十分な傾聴のスキルを有する人材の発掘・養成など課題が多い。

ナチュラルガーデンボランティア（図3）

① 活動に至った背景と現在まで

2009年2月にボランティアからいただいた梅の枝を患者さんのベッドサイドに届けた際、複数の患者さんから予想以上に喜ばれ、コミュニケーションが促進したエピソードを病院に報告した。これを契機に病院の中庭に、自然の庭を造り、ボランティアに関わってもらうことになった。

2009年5月に自然の庭（ナチュラルガーデン）が完成した。現在、無農薬野菜の農業に自ら従事している方を中心として、ボランティアによって自主的に野菜やハーブを育てる庭の活動が開始されている。この庭でできた収穫物を患者さんに届けたり、患者さんが車椅子で庭を見るために降りてこられることなど、患者ケアにつながっている。庭の植物や野菜は、会話の話題を提供し、医療者と患者間のコミュニケーション促進に役立っている。また、この庭はチームスタッフにとっての癒しの場でもある。

② 今後の課題

緩和ケアチームの提案で始まったボランティア活動であったため、当初、事務局をどこに置くか、すぐには決定できない不手際があった。当院がカバーする南房総地域では、菜園や園芸を仕事や趣味にしている人が多く、地域性から参加希望者が今後、増加する可能性もある。

現在の庭の大きさは非常に小さいが、将来的には、庭をさらに大きくしたり、「無農薬の収穫物を病院の食材の一部として利用できないか？」と



図3 ナチュラルガーデンボランティア

いった夢のある壮大な計画もボランティアからでている。今後の活動の広がりが楽しみである。

当チームのボランティア活動における課題

1) 現在、当チームボランティアの対応は、緩和ケア事務担当者や専従メンバーのなかでその都度手の空いたものが行う状況である。よって新規ボランティア加入時は、事務連絡、活動内容の詳細、スケジュールなどを事前に確認するという、ごく当たり前の作業が重要である。

2) 既存の病院ボランティアと緩和ケアチームボランティアの良好な関係をもつことが重要である。異なる活動を行うボランティアの管理上の必要事項について、関係者の間でよく話し合う必要がある。

3) ボランティア活動の維持、拡充には事務連絡作業や活動内容の管理など、余分のマンパワーが必要である。ボランティアのなかからコーディネーター役を育てる環境作りを目指す。当地域は農業・漁業で生計を立てる人が多く、いわゆる都心部型のボランティア活動とは縁遠い土地柄である。このため、ボランティアの自主的運営が軌道に乗るまでは、病院側がサポートを地道に行う必要がある。

4) 既存のボランティアと連携し、系統的教育を行うことは、今後の大きな課題である。

おわりに

「専門病棟をもたずにチーム活動中心で緩和ケアを提供する」当院のボランティア活動を紹介した。当院のように専門病床がなくても、ボランティアが緩和ケアチーム活動に関わることは可能である。緩和ケアにボランティアが参加する必要性や意義については賛否両論あるが、筆者はその意義は少なくないと思っている。

現在のわれわれの活動は始まったばかりのわず

かなものである。今後は、現在の活動を基礎として、個々のボランティアに活躍の場をもっと提供できればと思う。そして、地域市民に開かれた当院の緩和ケアチーム活動の充実を、関連部門の担当者の理解と支持を得ながら推進していきたい。

参考文献

- 1) 当院緩和ケアサポートチーム [<http://www.kameda.com/pr/palliativecare/info.html>]
- 2) リラ・プレカリアの紹介 [<http://lyraprecaria.kibounoie.info/>]